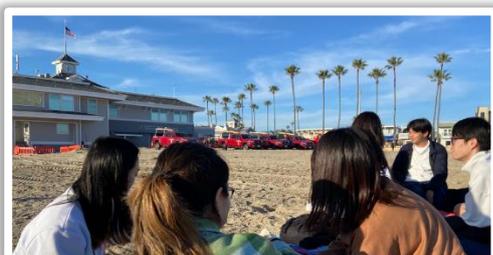


2023 年度
常磐大学 海外研修 報告書
- アメリカ -



University of California, Irvine (UCI)
カリフォルニア大学アーバイン校
2024 年 2 月 4 日(日) ~ 2 月 17 日(日)

研修日程表

日次	日付	地名	現地時間	予定	備考
1	2/4(日)	成田空港 集合	15:30	成田空港第1ターミナル南ウイング E カウンター前集合	昼:各自 夕:機内
		成田空港 発	17:55	ユナイテッド航空カウンターで搭乗手続き 出国手続き後、UA33 便で成田発	
		ロサンゼルス空港着	10:50	着後、アメリカ入国手続き ロサンゼルス空港から貸切バスで移動	ホストファミリー宅
Irvine Transportation Center 着	13:30	ホームステイ家族と合流し、ホストファミリー宅へ移動			
2	2/5(月)	アーバイン (UCI)	9:00 11:00	オリエンテーション キャンパスツアー	
3~6	2/6(火) ~ 2/9(金)	アーバイン (UCI)	9:00	UCI にて研修(火~金) (in Continuing Education 1)	
7	2/10(土)	ロサンゼルス	9:00	オプションツアー(1): ハリウッド	
8	2/11(日)			自由行動	
9~13	2/12(火) ~ 2/16(金)	アーバイン (UCI)	9:00	UCI にて研修(火~金) (in Continuing Education 1)	
			12:00	研修の閉会式	
14	2/17(土)	アナハイム	8:30	オプションツアー(2): ディズニーランド	
15	2/18(日)	Irvine Transportation Center 発	6:30	ホームステイ家族と移動 貸切バスでロサンゼルス空港へ移動	昼:機内 夕:機内
		ロサンゼルス空港着	7:30	ユナイテッド航空カウンターで搭乗手続き	
		ロサンゼルス空港発	10:30	出国手続き後、UA32 便でロサンゼルス発	
16	2/19(月)	成田空港 着	15:30	成田空港着、入国・税関手続き~解散	夕:機内

1 はじめに

私がアメリカ研修に参加しようと思った理由は、様々な価値観を得たり、大学の学びだけでは得られない経験をしたかったからです。私は昨年度も常磐大学の海外研修に参加し、フィリピンに行きました。フィリピンに行ったからこそ、アメリカや他の海外にも行きたいという気持ちが強まっていました。

事前に英語力を高めてから現地に向かおうと思っていたのですが、アメリカに着いてから何倍もその英語力が上がったと思っています。

2 事前研修の内容

事前研修は3年生という引っ張っていく立場だったからこそ、どうしたら研修がより良いものになるか考えていました。オレンジ学園のことなど、考えていく中で壁に当たることもありましたが、アメリカ研修のメンバーみんなで協力したからこそ、事前研修が実りのあるものになったのだと思っています。また、ここで積極的に何かできることはないかなと考えていたことが、研修に行った際の自分の原動力になったのだと感じています。

3 研修中の内容

UCIにおける英語クラスのこと

私が今回のアメリカ研修でたくさんの学びきっかけを与えてくれたのが、この英語のクラスだと思います。私が学んでいたクラスのレベルはとても高く、初めのうちはクラスのレベルを下げようか考えてしまうほどでした。しかし、クラスみんなが支えてくれたことで2週間頑張ることが出来たと思っています。

私がこの英語のクラスで特に頑張ったことを2つ挙げようと思います。

1つ目は、とにかくクラスみんなと仲良くなろうと努めたことです。私のクラスには同じ大学の友達が一人もおらず、クラスみんなはすでに同じ大学同士で輪ができていました。そこで私は授業中に積極的にその輪に入っていました。みんな英語を流ちょうに話していましたが、私の失敗を恐れない気持ちがみんなと仲良くなるきっかけになったのだと思います。授業中にはたくさん間違えたり、授業の内容が分からないことがありましたが、その都度みんなと協力し合っていたことで、毎回の英語のクラスを楽しめていました。

2つ目は、クラスの時間以外も大切にしました。私は同じ大学の友達と放課後を過ごすこともありましたが、できるだけクラスが同じ友達とも放課後を過ごすようにしました。彼らとショッピングをしながら今日の授業のことをしゃべったり、私がリスニングが得意だったので、その日のリスニングの復習をしたりなど教え合ったりもしていました。1つ目にも繋がるのですが、友達は授業だけの関係ではなく、このアメリカ研修を充実させるうえで一緒に助け合っていくパートナー的な存在だということを改めて気づかされました。

Conversation Partner との交流

私にとってConversation Partner との交流は、初めてのUCIの学生との交流という意味合いもあり、少し緊張する部分もありました。しかし、現地の学生と仲良くなるチャンスでもあったため、積極的にこの交流の場を活用していきました。彼女とはショッピングモールと一緒にいたり、他のグループとも混じってボーリングに行ったりもしました。自由にたく

さんの選択肢を選べるため、積極的にコミュニケーションを取って仲良くなることが大事だと感じました。私が工夫した点としては、日本のお菓子をたくさん持っていったことです。ボーリングに行った際に梅をトライさせたのですが、とてもいいリアクションをもらえました。彼女は私が持ってきた日本のお菓子をとても喜んでいたので、話すきっかけづくりのひとつになると思いました。

ホストファミリーのこと

私のホストファミリーはホストマザーだけでしたが彼女はとても優しい方でした。私が上手く英語を話せなくても理解しようとしてくれたり、彼女が話すときもゆっくりと私にわかるように話してくれました。彼女とはふだん一緒にティーを飲みながら話したり、休日には卓球をして楽しんでいたのですが、関わりの中で特に大事にしていたことがあります。それは毎回の食事の時の会話です。朝は今日何をやるか話したり、ディナーの際は大学のことや私自身のことなどたくさんしゃべる機会がありました。このような機会を大切にしていたからこそ、毎回のディナーが楽しみで、また自分の家族のような安心感が生まれたのだと思います。

UCIの学生との交流

私の叶えたかったことの1つである現地の学生の友達を作ることについて話そうと思います。私がアメリカにいる間、授業を受けている時間やホストファミリーと過ごす時間以外は、UCIの学生と一緒にいる時間がとても長かったです。彼らとよくディナーと一緒に食べたり、授業終わりに大学内でショッピングをしたりなど、とても充実した生活を送ることができました。もちろん同じ大学の友達同士で協力し合って大学生活を送ることも大事なのですが、現地の学生と仲良くなるメリットと仲良くなるきっかけづくりについて話そうと思います。

まず最初にメリットについてです。メリットはなんと言っても大学の生活を送る上で役立つ情報を知れることです。私は食べ物にとっても興味があったので、美味しいレストランやファストフード店をたくさん探していました。UCIにあるフードショップもたくさんあり、どれが美味しいのか全く分からないのですが、彼らはおすすめのお店やおすすめのメニューを紹介してくれるので、とても助けになっていました。大学終わりにタピオカを飲んだり、一緒に食べに行ったりととても楽しかったです。

次に、いきなり現地の学生と友達になるのも難しいのでそのきっかけづくりについて話そうと思います。私は最初、大学のプログラムで日本語を学んでいる学生と交流する機会がありました。その交流が終わった後に彼らのサークルのようなものに参加させて頂いたのですが、これがUCIの学生の友達を作るきっかけとなりました。彼らは日本語を少ししゃべれるので、私が英語に詰まってもそれを理解してくれました。そこからたくさんの友達を紹介してもらい、充実した大学生活を送る手助けとなりました。

4 まとめ

私が今回の研修で得たこと考えたことを2つにしぼってまとめたいと思います。

1つ目は、何事も挑戦する心を忘れないことです。みんなが英語をしゃべれるようになりたいという気持ちやたくさんの異文化体験をしたいと思っても、何事も積極的に行動しなければ上手くはいかないと感じました。私が今回の研修を実りあるものにできたのは自分から

積極的に色々なことに挑戦したからであると思っています。間違っちゃべっても大丈夫、分からないことがあったら友達の手も借りて聞いてみる、あの時何気なく頑張っていたことが、本当に大事なことなど思います。

2つ目は、これからの生活にどう活かせるかについてです。私は将来の夢として、東京都で教員になることを目指していますが、友達からはきっと大変な思いをされると言われます。茨城で教員を目指すことが悪いと言ってるわけではないのですが、常に最先端をいく東京都でもっと学びたいと思っています。色々な面で大変な部分はあると思いますが、アメリカに行ってさらに強まった何事にも挑戦する心を忘れずに、これからの大学生活も学び続けて行きたいです。

夢のアメリカ研修

人間科学部教育学科 2年

1.はじめに

私は小学校の時から海外ドラマを観るのが好きで、ドラマの影響で海外の文化に興味を持ち、中学生の頃から英語を話せるようになり外国人と交流をしたいと思い始め、いつか留学をしたいと思っていました。常磐大学に入学し、留学のプログラムを知り、英語も全然話すことが出来ないのにいきなり半年間の交換留学は勇気が入り、短期間の海外研修は私にとってちょうど良いと考え、昔からドラマでよく観ていたアメリカに行ってみたいと思ったのがアメリカ研修に参加したきっかけです。アメリカ研修に参加し、現地で英語に触れリスニング力やスピーキング力を身につけたい、またホームステイでの生活を通してアメリカ文化を体験したいと思いました。

2.事前研修の内容

事前研修では、現地での活動や交通手段などの説明や注意事項、ESTAの申請、現地で使える英語表現を勉強したり、オレンジ学園での子どもたちと一緒に活動する内容を考えたり、旅行代理店による説明などがありました。事前研修でGoogleマップを使って現地の大学を見た時は、大学の広さに驚くとともに、向こうでの生活を想像し、アメリカ研修に行くことがより楽しみになりました。また、事前研修の初めの頃はほとんどの人が初めて会う人ばかりで緊張していましたが、オレンジ学園での活動内容をみんなで話し合ったり、考えた活動内容を実際に実践して遊んでみたりし、アメリカに行く前にお互いを知るとても良い機会になりました。

3.研修中の内容

アメリカ研修において一番心配だったのがホームステイでしたが、ホストファミリーはとても優しい人で、たくさん気遣ってくれて、サポートしてくれたおかげで安心して2週間楽しく過ごすことができました。アメリカ人の人はあまり料理をたくさんしないと聞いていましたが、私のホストファミリーはほとんど毎日美味しい料理を作ってくれて毎回夕飯を楽しみにしていました。夕飯のあとはホストファミリーと一緒に映画を観て過ごしました。映画を観ることが好きなので、ホストファミリーのおすすめの映画を観たりしてたくさんの映画を観ることができ、この時間が私はとても好きでした。休日はショッピングモールに連れてってもらえ、アイスクリームご馳走してくれたうえに、服をプレゼントしてくれました。そのあとは夕飯にホットドッグを作り、一緒にアメリカンフットボールを観戦しました。授業でもアメリカンフットボールについて





触れた後で、観てみたいと思っていたのでホストファミリーと一緒に観ることができて嬉しかったです。とても親切なホストファミリーの家にホームステイさせてもらえてとても感謝しています。

アメリカでの生活が始まって三日目にオレンジ学園に行き、アメリカと日本のハーフの子供たちと交流しました。子どもたちはとても元気で、皆個性豊かで、交流

はとても楽しかったです。私は幼稚園教諭になることを目指しているのですが、オレンジ学園の先生の子供たちへの接し方はとても勉強になりました。日本では集団行動の意識が高く、周りと違う行動をすると「恥ずかしい」という雰囲気があり、集団の輪をかき乱さないようにと教育されることが多いと感じます。オレンジ学園の先生は、子どもたちの個性を引き出し、伸ばすということを大事にされていて、日本の教育では欠けている部分だなと感じ、これから子どもたちと接していく際に参考にしようと思いました。また、5歳ぐらいの女の子が私に花びらをプレゼントしてくれ、とても嬉しく思い出に残っています。花びらは大切に日本に持ち帰ってきたので、宝物としてこれからも大切に保管しておこうと思います。



日本語学科の学生との交流や、Student Panel でも色々な学生の話聞くことができ、Conversation Partner との交流では、好きな音楽をシェアしたり、カードゲームやポーカーをして遊んだり、ポーリングやショッピングモールにも行くことができ、とても楽しい思い出になりました。

日本語学科の学生との交流や、Student Panel でも色々な学生の話聞くことができ、Conversation Partner との交流では、好きな音楽をシェアしたり、カードゲームやポーカーをして遊んだり、ポーリングやショッピングモールにも行くことができ、とても楽しい思い出になりました。

4. まとめ

海外研修に参加することは、比較的引っ込み思案な性格の私にとってひとつの大きな挑戦でした。アメリカ研修に参加したからといって、英語がペラペラになったり、特別何かが大きく変わったりしたわけではありませんでしたが、日本を飛び出し、言葉も文化も違う国で過ごした経験は、自分の中で「挑戦した」という自信につながりました。もっとホストファミリーや現地の学生と拙い英語でもたくさん話せばよかったと思うところもありますが、日本でも様々な人と話して価値観を広げたいと思うようになり、英語ももっと勉強して近いうちにまた海外に行き、外国人と英語でたくさん話せるようになりたいという思いが強くなりました。今の目標は大学卒業後にワーキングホリデーを利用して海外で働いたり旅行をしたりすることです。今回の研修をとして学んだことや感じたことを忘れずに、これからの生活に生かし、次の目標に向かって進んでいきたいと思っています。

海外研修レポート

人間科学部現代社会学科 1年

1. はじめに

私がアメリカ研修に参加したきっかけは、異文化を体験し、新たな価値観を学びたいと考えたからだ。日常生活を送る中で、新たな価値観や考えを得る機会は多々ある。特に、アルバイトでは異なる世代の人と関わることで、新たな視点がもたらされる。私は、そのような経験をする中である疑問が生じた。それは、海外ではどのような価値観が形成されているのかということだ。日本とは異なる文化で生活がなされている海外では、人々はどのような価値観を持ち行動しているのか。日本との類似点や相違点はどのようなものなのか。特に、多民族国家であるアメリカではどのような文化や価値観が形成され共生しているのか。私は、このような疑問の問いを見つけ、新たな視点を獲得するためにアメリカ研修に参加した。

2. 事前研修の内容

アメリカ研修を行うにあたり、事前研修が数回実施された。ここでは、主にオレンジ学園との交流準備や事前準備などが行われた。オレンジ学園との交流会は、私たちが児童と触れ合うというもので、常磐大学が行っているプロジェクトだ。交流会に向けた準備は、向こうの児童が楽しめるような企画を考えるというもので、何が楽しめるのか、どうやったら全員が参加できるかを何度も話し合った。また、事前準備では出国審査やホームステイ先での注意事項などを確認した。私は、海外に行った経験が一度もなく、出国審査やその他の手続きがどのようなものなのかが分からなかったため、とても不安で常に緊張感が伴っていた。また、ホームステイでの注意事項では多くのことを学び、シャワーは10分以内に済ませるなど日本とは大きく異なるルールがあった。上記の以外にも、現地の動き確認や英語の講義などが行われた。

3. 研修中の内容

UCIでは英語の講義があり、アメリカンカルチャーとスピーキング&リスニングの授業が行われた。アメリカンカルチャーの講義では、ゲームを行いながらアメリカの文化を学ぶというもので、日本にはない形式だった。座って講義を受けるよりも、実際に参加して話を聞く方が圧倒的に理解しやすく、講義も退屈せずに受けられた。そのため、日本もこのような形式の講義をするべきだと感じた。また、スピーキング&リスニングの授業では、短縮の発音や文法を学んだ。この講義を受け、予備知識があっても、それが英語で説明されるとほとんど分からなくなるという事に気づいた。

ホストファミリーとの生活では、常に緊張感があったため、終始無言になってしまった。聞かれたことに対し、返答することが難しく、会話が弾まずに終わってしまうことが多々あった。そのため、ホストファミリーからもっと会話をしろと何度も言われた。ホストファミリーと生活する中で、最も驚いたことは、はっきりと主張するということだ。日本では、家族でもストレートに表現する機会はあまりない。しかしながら、アメリカでは嫌いなものは嫌いとはっきり主張し、意思表示をする。これは、日本ではなかなかない文化だと感じた。

また、私のホームステイ先は犬を飼っており常に吠えられていた。日本の犬と違いがなく、食事や運動もしていた。怒られたときは、唸り声をあげておりこの点も日本と類似していた。

4. まとめ

私はこの研修を通じて、多くのことを経験し、学んだ。日本とは大きく文化が異なるアメリカでは、成功する機会が多く、夢を叶えるには適切な場所であると感じた。しかし、それと同時に自己責任が強く、失敗してもサポートが手薄であると感じた。この点は日本の方が生きやすく、平等感が強く存在すると気づいた。また、はっきりと主張するという文化は、一見生きやすいように見えるがあま

りに直接的であったため、かなり苦しんだ。しかし、直接的な表現が必要な場面もあるため、これには使い分けが必要だろう。これらから、物事の良い点だけを見て判断するのは危険なため、慎重に物事を判断したいと考えた。

二週間のアメリカ生活は理想とは大きく異なり、しばしばカルチャーショックを受けた。しかしながら、会話の大切さやアメリカ独自の価値観を学び、人と人とのつながりの大切さに気づかされた。この研修で学んだことを人間関係に活かし、多くの関係を築き上げ、充実した生活を送りたいと考えた。



2023 海外研修アメリカ 事後研修報告書

人間科学部コミュニケーション学科 3年

1. はじめに

私は去年の2月19日から3月4日までフィリピン研修に参加した。海外研修に参加したことから、他の海外研修にも興味を持ち、またアメリカに行って自分の英語力を向上させたことが自分の夢の一つであったため参加を決めた。日本とアメリカの文化や習慣の違いを理解するだけでなく、英語を使うことにもっと慣れたいと思った。

2. 事前研修の内容

現地での行動予定を立てたり、現地で使える英語表現を学んだりした。入国する前に行う申請を作成することが大変だった。また、未知の地で生活するうえで覚えておかなければならない注意事項をよく学んで知る必要があった。

3. 研修中の内容

UCI では英語の授業を始めとした様々な活動を行った。American culture と English speaking & listening の2つの授業を受けた。授業ではゲームやプレゼンテーションの発表などを行った。しかしクラスメイトは日本人のみだったことがかなり衝撃的だった。なぜなら、私はUCIで現地の学生と関われることを楽しみにしていたが、思っていた以上に関わる機会が少なくて残念だった。Student Panel はUCIの参加者が思っていた以上に少なく、Conversation Partner は週に2回の短い時間でしか一緒にいることが出来ず、全然現地の学生と関われなかったことがとても残念だった。

私のホストマザーは私をとっても暖かく迎えてくれて、毎日話が尽きないくらいに今日1日のことを話した。学校が終わって帰ると犬の散歩へ一緒に行き、アメリカの料理を毎晩振舞ってくれた。一緒に買い物や寿司レストランに行き、私のホストファミリーと貴重な時間を過ごすことが出来たことがこの研修で一番嬉しかった。

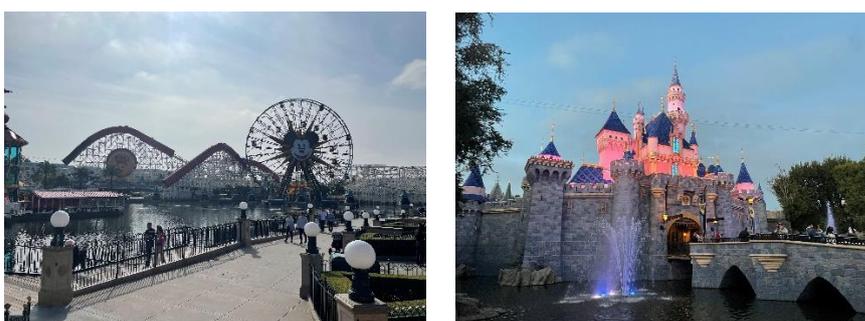
アメリカのスーパーマーケットや飲食店などお店に入った時、日本とは違う雰囲気を味わうことが出来た。店員さんがお客さんと自由に喋っていたり、自分の食べ物や飲み物を頼むときに名前を聞かれたりなど日本では経験したことがないものを見ることが出来た。また、日本でも馴染みのあるバレンタインをアメリカの人々は全員がバレンタインをお祝いしていたことに驚いた。親しい人にチョコレートを渡すだけでなく、メッセージを書いたカードや花を贈っていて、日本との違いが印象に残った。

週末のオプションツアーではハリウッドツアーとアナハイムディズニーランドに参加した。ハリウッドでは有名なハリウッドサインやグリフィス天文台から景色を目に焼き付けた。私は映画を観ることが好きで、ハリウッドの有名な場所を訪れることが出来てとても

嬉しかった。その次の週にカリフォルニア・アナハイムディズニーランドを訪れた。日本のパークとは違う部分が多くあり、ここでしか楽しめないことがたくさんあって時間が足りないと感じるほどとても楽しい時間を過ごせた。また、常磐大学に留学していたアメリカ人留学生たちと再会し、一緒に買い物をしたりご飯を食べたり出来たことも嬉しかった。



グリフィス展望台、エンジェルフライト、チャイニーズシアター



アナハイムディズニーランド (カリフォルニアアドベンチャーの観覧車、パークの眠れる森の美女のお城)

4. まとめ

今回初めてアメリカに行けた経験は私にとってとても良い経験になった。アメリカに到着して数日間は不安ばかりで何もかもが怖かったが、ホストファミリーや現地の人たちと生活することで今まで経験したことのないものを学び感じる事が出来た。フィリピン研修に参加した時より、自分の英語力を身につけようと意識するようになった。英語を使うことはまだ難しいが、今回のアメリカ研修に参加して自分の語学学習においてもっと理解を深めたいと思った。日本ではありえないことは日常茶飯事のように起こっているし、人々の自由さや生き方について改めて考えなおす事が出来た。アメリカにはまだまだ知らないことがたくさんあると思うので、またアメリカを訪れたいと思った。

海外研修 報告書

人間科学部コミュニケーション学科 3年

1. はじめに

私がアメリカの海外研修に参加した理由は、大学生活に何か大きな目標を作りたいからである。大学1~2年生の学生生活はコロナ禍の影響によって大きな活動ができず、大学の授業かアルバイトだけをしている日常だった。大学3年生になるにあたって就職活動が始まることを考え、私には「学生時代に力を入れたこと」いわゆる「ガクチカ」が無いことに気付いた。そこでアルバイトの塾講師で主に教えている「英語」に力を入れてみようと思い、国際交流語学学習センターでトークタイムや留学生との交流を頻繁に行うようになった。その国際センターで行われていた留学報告会に参加したところ、留学ではないが短期の海外研修があることを知り、応募を決めた。大学生活に大きな目標が無かった私に「アメリカに行く」という目標ができたため、参加を決めてからの約1年間は何をすることも海外研修に繋がると信じ、色々なことに挑戦することができた。

海外研修では自分の「コミュニケーション能力」に自信をつけることを目標としていた。コミュニケーション学科に所属し、アルバイトで塾講師をし、スピーチを行うゼミナールに入り、留学生との交流を積極的にしてきた私は、就職活動で自分の長所は「コミュニケーション能力」と自信を持って言えるようにしたかった。自信をつけるためには言葉や文化、価値観が異なる場所で本当に自分のコミュニケーション能力が働くのか、実際に海外に行くことで確かめる必要があると考えた。

2. 事前研修の内容

毎週火曜日の6限目に国際センターで事前研修を行っていた。私は5、6限にゼミナールがあったため途中で抜け出して参加していた。事前研修ではアメリカで日常的に使える英語を学ぶ「Survival English」や、現地のオレンジ学園でのレクリエーションの話し合いなどをしていった。オレンジ学園では自己紹介をしながら折り紙をして、その後に「なんでもバスケット」をすることに決めた。私は折り紙班だったため、班のメンバーと折る折り紙の種類を決め、実際に折ってみて難易度のチェックをしていた。事前研修は週に1回だったが時間外にLINEグループで頻繁に情報を共有して少しずつ準備をしていった。

3. 研修中の内容

研修中の内容は「ホームステイ」「UCIでの授業」「研修メンバー」の3つについて述べていく。まず「ホームステイ」。アメリカでのホームステイは最初の一週間がとても大変だった。水の種類が違うのか日本から持ってきたシャンプー、リンス類が泡立たなかったり、時差ボケで深夜に目を覚ましたり、到着してからずっと雨だったので気分が上がらずにい

た。「自分のコミュニケーション能力に自信をつける」を目標にしていたため、積極的に人に話しかけようと思っていたが、その前にアメリカでの生活や英語を聞き取ることが大変だったため、なかなか自分から話すことはできなかった。ホストファミリーとの会話も最初はぎこちなく、新しい環境に慣れることに体力を使ってしまい夕食後すぐに寝てしまうことがほとんどだった。しかし二週間目からは生活リズムが整い、ホストファミリーも自分が慣れてきたことに気付いてくれて、今日の出来事などを聞いてきてくれるようになった。ホストファミリーとの交流で特に楽しかったのは夕食後にみんなでやったカードゲームである。「Kings Corner」というトランプゲームを教わり、とても気に入ったので Conversation Partner にも教えて対決した。ホストマザーがとても強く、勝った後に『上を向いて歩こう』を必ず口ずさむのが印象的だった。

次に「UCI での授業」である。UCI へは、家からバス停まで歩いて 20 分、バスで大学まで 30 分かけて通学していた。初めはバスの乗り降りに緊張していたが、アプリでバスの来る時間が分かったり、乗るときは \$2 のチケットの QR コードをかざすだけだったり、慣れると日本よりも便利に感じた。UCI での授業では特に「リスニング力」が上達した。先生はとてもフレンドリーで分かりやすい英語で話してくれたので、二週間目になると常磐大学で授業を受けているのと同じ感覚だった。自分たちがアメリカに行った時期はバレンタインデーと、アメリカンフットボールのスーパーボウルが開催されたタイミングだったので、授業でこれらの内容を扱い、アメリカの文化も詳しく知ることができた。バレンタインデー当日は多くの UCI の学生が花束を持って歩いており、ホストファミリーは夫婦でディナーに出かけていた。家族や恋人、友達への愛情を恥ずかしながら伝えるアメリカに住んでいる人たちの行動力には私は感銘を受けた。

最後に「研修メンバー」について述べる。私と共に海外研修に来た 12 人のメンバーはほとんどが初アメリカということなので、授業以外でも常に一緒に行動していた。授業が始まる前に昼食としてハンバーガー、タコス、ピザ、中華料理など色んな店にみんなで行った。しかし注文するときは基本 1 人なので、毎回緊張しながら、分からないときはとりあえず「Yes」で乗り越えていた。中でも「パンダエクスプレス」が気に入って 1 人でも食べに行ったので、日本でも探してみようと思う。みんなと行動した中で一番楽しかったのはやはり週末のツアーである。映画好きの自分にとってハリウッドとカリフォルニアのディズニーランドは夢のような時間だった。正直、満足するには時間が足りなかったが一生の思い出が作れたので、またいつかお金を貯めて来ようと思う。一方で治安や接客などに関しては、やはり日本の方がいいなと感じた。特にハリウッドの前に訪れたベニスビーチは目を合わせてはいけなさそうな人がうろついていたため、何とも言えない恐怖感を味わった。このように海外研修を通してアメリカの良さだけでなく、日本の良さに改めて気付いたことはとても良い機会だった。

4. まとめ

海外研修を通して私は自分の「コミュニケーション能力」に自信をつけることを目標としていた。正直なところ自信をつけることはできなかった。アメリカでの生活が思ったよりも大変で、自分から話しかけたり、色んなことに挑戦しようと思える心の余裕がなかな

かできず、慣れてきた頃には帰国してしまった。誰にでも自分から話しかけに行く人、行動力が凄まじい人、何があっても動じない人など、自分以外のメンバーの「コミュニケーション能力」や「積極性」を見て尊敬と共に羨ましく感じていた。しかし私は今回の研修のために約1年間、様々なことに挑戦してきた。「アメリカに行く」という大きな目標を立てたおかげで、大学とアルバイトだけだった日常が毎日違うことを行う充実した学生生活に変わったのだ。実際のところアメリカに行く前に自分のコミュニケーション能力にある程度、自信がついてしまっていた。今回の海外研修でそのコミュニケーション能力を発揮できた場面は少なかったが、参加したこと自体が私にとって意味があったのだと考えるようになった。だが、ちょっと悔しい気持ちもあるのもう一度、海外研修に参加しようと思う。金銭的にアメリカは難しいが、卒業までにまだ1年あるので、再度大きな挑戦をし、アメリカではできなかったことを他の場所でできるように頑張りたい。このような成長できる機会を与えてくれた常磐大学の先生・スタッフの方々、アメリカでお世話になった皆さん、家族、研修メンバーに大きな感謝をしています。そして自分を褒めたいです。



海外研修アメリカ

人間科学部健康栄養学科 2年

1. はじめに

私がアメリカ研修に参加しようと思ったきっかけは、英語が好きで英語圏に行って現地の人と交流したり、街並みや文化に触れたりしてみたいと強く思っていたからです。英語は好きですが、会話に自信がなかったため、英会話の向上やコミュニケーション能力の向上を図りたいと思いました。また、アメリカの文化を知りたいと思いました。

2. 事前研修の内容

事前研修では、ESTA 申請を行い、入国審査の仕方や注意点、バスアプリやウーバーなどを含めたアメリカでの生活に役立つ物事を教えていただきました。また、真由美先生による Survival English の授業がありました。旅行代理店による飛行機に受託可能な手荷物や機内持ち込み可能な手荷物についての説明、犯罪対策の説明を受けました。オレンジ学園交流会での企画を学生同士で考え、準備を行いました。子どもたちにとって楽しんでもらえるような、そして日本語の勉強にもなるような企画準備に努めました。

3. 研修中の内容

UCI では、American culture と Speaking & Listening の授業を毎日受けました。American culture の授業ではアメリカでの催事や音楽やスラング、英語独特の発音を学び、実際に声に出して練習をしました。Speaking & Listening の授業では教科書を用い、単語の意味を学び動画視聴やリスニングを何度もして内容理解をしました。どちらの授業もペアを組みスライドを作って「アメリカの州を一つ選んで説明する」、「日本とアメリカのショッピングの違いについて説明する」について発表をしました。英語を英語で勉強するという機会はあまりなく良い経験になりました。先生はゆっくり伝わりやすい英語で話してくれたので不安はあまりなく、楽しんで受けることができました。授業は午後からだったため、お昼は学食を食べたり、学校近くのユニバーシティセンターで色々な食べ物を食べました。カリフォルニアで有名な In-N-Out Burger に行けたことがとても嬉しかったです。アメリカでは日本よりサイズが大きいことがほとんどで食事が出てくたび驚きましたがどれもおいしかったです。オーダーの際には名前を聞かれることが多く正しく伝わらないこともありましたが名前の書かれたレシートはとても新鮮で嬉しかったです。

Conversation Partner との交流は日本学生 4,5 人に対し UCI の学生 1 人で週 2 回、計 4 回行いました。好きな物事やカリフォルニアのおすすめの場所などたくさんの方との会話をしたり、トランプや UNO、ジェンガで遊んだり、校内を案内してもらったりもしました。また、学校内だけでなく近くのピザ屋さんで食事をしたりビーチに行ってゆったりとした時間を過ごしました。UCI の学生は優しく気さくで同年代ということもありとても楽しむことができました。

オレンジ学園では、日本語を学ぶ生徒だけでなく、シンシア原先生や保護者の方々との交流を楽しみました。シンシア原先生の教育はとても情熱的で、「ひとりひとりの個性を見だし、伸ばしていく。」という考えを持っており、保護者の方々との連携も強く感じられました。生徒たちはそれぞれ豊かな個性を持っており、とてもパワフルで私は元気をもらいました。そして私が思っていたよりも日本語が堪能で英語の発音を教えてもらったりもしました。一緒にゲームをする時間は短くなってしまいましたが、保護者の方々のご飯を用意してくださり、素敵な時間を過ごすことができました。

海外研修アメリカ

人間科学部健康栄養学科 2年

ホストファミリーはイタリア人の Luca と南アフリカとアメリカのハーフである Sam の夫婦でした。二人は私たちを心優しく受け入れてくれました。緊張している私を見て、「ここはあなたの第二の家なのだからリラックスして良いんだよ」という言葉をかけてくれました。時には Google 翻訳を用い、親睦を深めようとしてくれました。主に Sam の手料理を、時にはハンバーガーやピザのテイクアウトを食べることもありました。また、日本のカレーを作り振舞いました。ご飯は鍋炊きだったため失敗してしまいましたが美味しいと言ってくれてとても嬉しかったです。夕飯時にはどんな一日だったか話したり、家族についてや趣味について写真を見せあいながら話したりしました。夕飯後はみんなで映画を観てゆったりしました。朝ごはんは自分で用意し、シリアルやヨーグルトを食べ、紅茶を飲みました。家からはバスで学校に向かいました。2ドルを現金で支払ったりバスアプリからチケットを購入し QR コードをかざして乗ったりしました。時間通りに来ないことも多く、バスが今どこにいるのか Google マップを見ながら待ちました。バスの本数も少なかったため、乗り遅れると大変でした。オプションツアーがなかった日曜日にはホストマザーと買い物に行き、お土産を買うのを手伝ってくれました。そのあとは家でみんなでチップスをつまみながらアメリカンフットボールの試合を観たり、映画を観たりしました。ホストファミリーは大きなソーセージを焼いてくれて、アメリカンホットドッグを食べました。バレンタインには、学校のアクティビティで作った名前入りのビーズキーホルダーをプレゼントしました。とても喜んでくれました。お別れの時は折り紙で多面体のくす玉を作ってプレゼントしました。駅での最後のお別れはハグをし、温もりを感じられました。

オプションツアーでは、ロサンゼルスツアーとディズニーランドツアーに参加しました。街並みは素晴らしく、たくさんの人たちで賑わっていました。天文台からはハリウッドサインや街並みを眺めることができ、とても綺麗で感銘を受けました。ディズニーランドではたくさんのアトラクションに乗ることができてとても楽しい時間を過ごすことができました。パレードと花火ショーも観ることができて感動しました。

4. まとめ

今回の海外研修で私は色々な経験ができ、かけがえない思い出となりました。初めての飛行機と初めてのアメリカで2週間暮らすことは、高校生までの私にとっては考えもつかない大きな挑戦でしたが大学生になり、行くと自分で決め挑戦することができました。そのこと自体が大きな進歩だと思いました。不安と緊張で「やっぱり無理かも」と思ったこともありましたが、常磐の学生たちがいてくれたため心強かったです。最初の数日間は雨に悩まされましたが、そのあとは快晴が続き、広々としていて景色が綺麗でした。ホストファミリーも心優しく私を受け入れてくれてとても幸せでした。日本では、感情や思ったことを言わずに空気を読み取ることが多いですが、アメリカではささいな出来事や心境を話すことが多いと感じました。ホストファミリーは毎日、「今日を楽しんで！」や「学校はどうだった？」と聞いてくれてコミュニケーションの大切さを知りました。最初の数日間はあまりできていませんでしたが、挑戦すると決めたからには勇気を出そうと自分を奮い立たせ、わからないときはわからないとはっきりと伝える、自信がなくても頑張っ伝えて伝えようとするということができました。日本でも内気にならずに言いたいことは言えるように努力していこうと思いました。今回の海外研修の参加に同意してくれた両親に感謝しています。英語をさらに勉強してまた参加したいと思えるくらいとても素晴らしい経験をすることができました。

海外研修アメリカ

人間科学部健康栄養学科 2年



アメリカ研修

人間科学部健康栄養学科 2年

1. はじめに

私は、異文化交流に興味があり、海外に行ってみたくずっと思っていました。そして、大学一年時に海外研修が行われていると知り、多民族国家で様々なひとと交流できそうだなと思いアメリカ研修に参加しようと思いました。しかし、その時期はコロナが流行して開催されず、フィリピン研修に参加しました。フィリピン研修は、多くの刺激をもらいとても良い経験になりましたが、まだアメリカにとっても魅力を感じていました。2年生では、コロナも落ち着き、今度こそと思い、この研修に参加しました。

2. 事前研修の内容

事前研修では、主にアメリカで生活するのに必要な最低限の日常会話の練習やアメリカと日本の生活ルールや文化の違いを学びました。また、向こうで訪れるオレンジ学園で子供たちと行うゲームを考えました。

3. 研修中の内容

私のホストファミリーは、ホストマザーとホストシスターの2人でした。他にも、日本からの留学生とドバイからの留学生がおり、もう何年も留学生を受け入れている家庭でした。初めは、英語が話せないし、うまくやっけていけるか不安でした。しかし、2人とも、私の拙い英語をよく聞いてくれたり、私が聞き取れるようにゆっくり話してくれたりなどとてもやさしかったです。そのおかげで、自分からどんどん積極的にコミュニケーションとりにいけるようになり、2人との距離もかなり近くなったと思います。私のホストファミリーは、朝はそれぞれ好きな時間帯に食べて、夜はみんなで食べるスタイルでした。いつも朝はシリアルを、夕飯はホストマザーが作ってくれたごはんを食べていました。ホストマザーは料理が趣味で、調味料や調理器具がたくさん持っていて、どの料理もとても美味しかったです。



アメリカでの生活は、初めてのことでとても新鮮でした。平日は、大学で授業を受けたり、UCI 学生と交流したりして、休日はハリウッドなどを観光しました。大学

は、ホストファミリーの家から歩きとバスで通っていました。アーバインは自然豊かで、バス停まで歩いているとよくリスを見かけました。日本の野良ねこのように、リスの他にもうさぎがおり、とても驚きました。UCIは、常磐大学より何倍も大きく慣れるまで大変でした。授業は、日本とスタイルが異なっていました。日本は、先生の話静静地に聞いていることがほとんどですが、私たちが受けた授業では、生徒と生徒の対話方式で授業が進み、どんどん反応しないとイケないので、ついていくのが大変でした。CPでは、常磐の学生数人にUCIの学生が一人ついたグループで、放課後、ビーチに行ったり、カードゲームやボードゲームをしたりして交流しました。休日は、大学のツアーに参加し、ハリウッドやディズニーランドなどに行きました。映画でみたことある風景を実際にみることで、とても感動しました。



4. まとめ

私は、アメリカ研修を得て、日常会話が少しできるようになったのと、英語のポキャブラリーが増えたと感じています。本や授業などで学ぶことは今までしていましたが、今回の研修で実際に英語を使って生活してみて、分からないことがたくさんありました。しかし、その時、すぐにスマホに頼らず後から自分で調べて、また別の場面でつかうことを行っていました。自分で勉強するよりも覚えやすく、上達しているのを感じました。これからも、この研修で得たことをここで終わりにはせず、自分の次のステップアップへとつなげていきたいです。

アメリカ研修

総合政策学部経営学科 4年

1. はじめに

私がアメリカ研修に参加したいと思ったきっかけは、日本とは異なる文化や価値観に触れて自身の視野を広げたいと思ったからである。私は生まれてからずっと日本に住んでいるので学生という好きなものを学べる時間が多い時期に海外の文化や価値観に触れて自身の視野を広げたいと感じた。私が入学した年から新型コロナウイルスにより、大学の授業はオンライン化し、海外研修のプログラムも中止になってしまっていた。そして、私が3年次のときにアメリカ研修の募集があり、応募したのだが募集人員に満たず、中止となってしまった。社会人になってからでは2週間という期間を海外で過ごすのは難しいと感じていたため、卒業の直前ではあるが、今年度のアメリカ研修へ参加した。

2. 事前研修の内容

・第1回(11/14 火)

自己紹介、海外研修 2023Google スペース作成、ESTA申請、オレンジ学園交流会について、日本語学科交流会について

・第2回(11/21 火)

注意事項

1. 入国審査、2.Wi-Fi準備、3.バスアプリ、ウーバー、グーグルマップの使い方等
Survival English1

・第3回(11/28 火)

オレンジ学園交流会

・第4回(12/5 火)

日本語学科交流会準備
Survival English 2

・第5回(12/12)

広告代理店による説明会

・第6回(12/19 火)

オレンジ学園合同準備

・第7回(1/9 火)

オレンジ学園合同準備

・第8回(1/16 火)

広告代理店による説明会

・第9回(1/30 火)

3. 研修中の内容

アメリカ研修では、平日は大学で授業をし、土日は観光をするといった内容であった。

① ホストファミリーとの生活

まず初日はアメリカに到着後、お世話になるホストファミリーと合流しそれぞれホストファミリーと1日を過ごしたのだが、最初はとても緊張しており、なおかつ英語に耳が慣れていない状態であったため聞き取るのにとっても苦労した。しかし、ホストファミリーがゆっくりと丁寧に話してくれたため、少しずつではあるが理解することができた。また、初日にはホストファミリーの家でシャワーの使い方やトイレの場所、寝室などの説明を受けた後に夕食をとり、その後、ホストファミリーが信仰している宗教の教会へ行き音楽を聴いた。そこで信仰している人の中に日本人がおり、その人から勧誘を受けたがやんわりと断った。

ホストファミリーとの生活にて、私は少々遠慮がちにホームステイ生活をスタートしたのだが、ホストファミリーが「私たちは家族なのだから」と言って本当の家族のように接してくれ、1週間が経った頃には初日よりも気軽にコミュニケーションが取れるようになった。そして、帰国日が近づくにつれて少し寂しいと思えるようになるくらい楽しむことができた。



② 大学での生活

アメリカ研修2日目からの大学生活では最初に「Program Orientation」を受けた。現地の大学の紹介をしてもらっていたのだが、私はこの時点で話している内容のほとんどが理解できず、軽く絶望したのをよく覚えている。

3日目からは大学で「American Culture」と「Speaking & Listening」という授業を受けた。私たちの American Culture のクラスでは、アメリカの州の観光地や方言について学んだ。また、自分たちが選んだアメリカの州をプレゼンテーションするといった時間もあった。Speaking & Listening のクラスでは、単語の勉強やリスニング、そしてこの授業でもショッピングの際のアメリカと日本の違いに関するプレゼンテーションがあった。私は、人前に立ってプレゼンテーションをするといったことは得意ではなく、ましてや英語でのプレゼンテーションということもありとても緊張した。アメリカでの授業は日本の授業と比較して積極性が求められると感じた。



③ 観光について

私たちは1週目の土曜日にハリウッドツアーへ参加し、2週目の土曜日にカリフォルニアディズニーへ行った。アメリカの景色はどこを撮っても絵になるため写真を撮るのが楽しかった。

4. まとめ

このアメリカ研修で感じたことは、英語を聞き取るよりも話すほうがはるかに難しいということである。聞き取る力に関しては数日で上達したと実感できたのだが、話すことに関しては2週間経過しても思ったよりは上達しなかった。私は今後も海外の人たちとの交流をして様々な文化に触れたいと思っているので、この経験を活かして今後の英語力の向上に努めたいと帰国後に感じた。

また、日本に比べて現地の人たちはネガティブな印象がなかったというのも感じた。例えば、普段会話をするときから常に笑顔であったり、自分の失敗談を話す際にも笑い話のように話していたり、ネガティブな印象を感じる事がなかった。実際にそういった人と会話をしてみても話しやすいと感じた。なので、今後の生活の中では私自身もそういったことを意識して過ごしていこうと感じた。

そして、私は英語ができなくても大丈夫ということはこの研修の応募前に聞いており、私はあまり勉強をせずに研修に参加したのだが、今後、このアメリカ研修へ参加する人たちにはある程度の英語の知識は事前に覚えておくことを強くお勧めしたいと思った。

最後に、この研修はとても楽しく、学生生活最後の大きな思い出になったと感じている。私はこの研修に参加した常磐大学生で唯一の4年生であったため、最初は打ち解けることができるか不安であったが、事前研修で交流をするにつれて、少しずつ打ち解けることができ、現地でも集まってご飯を食べたり、買い物をしたりと楽しむことができた。新型コロナウイルスにより満足に外出ができないことが多かった大学生活ではあったが、最後に大きな思い出を作ることができた。この2週間で得た経験を活かして社会人生活でも頑張っていきたいと思う。

アメリカ研修

総合政策学部経営学科 3年

1. はじめに

私はもともとアメリカに興味があったこと、また高校の修学旅行先がアメリカの予定だったが、新型コロナウイルスの影響でいけなくなってしまったことから、よりアメリカへの思いが大きくなり、今回アメリカ研修に参加することを決めた。

私は今回の研修で、日常生活の中で相手と簡単なコミュニケーションを取れるよう、現地に行って英語に触れることでそのスキルを身に着けたいと考える。また、日本の学校で学ぶ英語は実際の英会話で使えるものか、日米で英語の教え方に違いはあるのかを実際に体験して知りたいと考える。

2. 事前研修の内容

アメリカでの注意事項なども説明してくれたため、事前に備えておくことができた。

Survival English として、渡辺先生から実戦で役立つ英語の会話や言い方を学んだ。場面ごとにそのシチュエーションでの会話や質問されたことへの最適な答え方を教わった。

オレンジ学園との交流に際し、当日行う簡単なレクリエーションについて研修に参加する生徒みんなまで考え、実践した上で改善を加えながらスムーズに運営できるよう準備した。

一緒にアメリカ研修に参加するみんなとの交流で、学年や性別を問わず仲良くなることができた。

3. 研修中の内容

ホストファミリーは、教師をしていて子供たちも巣立った家で、一人で暮らしている女性の方だった。優しく、言葉のわからない私たちに対し真摯に向き合ってくれる、時に大胆さや大雑把さも見える、そんなホストファミリーだった。教師ということもあり、「言葉を繰り返すことが大事だ」「言ってみなさい」と私たちの成長も導いてくれた。その結果、2週間行った研修中、最後までホームシックになることなく楽しく過ごすことができた。

英語のクラスは事前に行ったテストをもとに、自分のレベルに合ったクラスへ振り分けられたため、苦になることもなかった。授業は主に2つあり、一つはアメリカの文化について、もう一つは英語のスピーキングやリスニングについてである。アメリカの文化の授業では日本ではあまり教わらない発音の違いを教わったり、文化について身近なことを交えて説明してくれたりする。もう一つの授業では、とにかくクラスの人と英語で会話すること、また教科書に付属してある CD を、内容をすべて覚えてしまうほど繰り返し聞いた。担当の先生はネイティブアメリカンの人で言葉はすべて英語だが、聞き取りやすいようにゆっ

くり大きく話してくれ、知らない言葉や物事があるときは違う言葉で言い換えたり、じっくり説明をしてくれたりもした。一緒に授業を受けるクラスメイトは全員日本人で、同時期に同じく全国各地から研修に来ていたため、聞き取れなかったことは周りの人と助け合っていた。初対面でも授業の半分以上がグループワークを行うため、帰国するころにはかなり仲良くなることができた。また数人に一人現地の学生をパートナーとしてつけてもらい、遊びに行ったりボードゲームをしたりしながら英語に触れるという授業が週に2回あった。現地の学生と会話する機会があることで、日米の違いや実際に使う英語などを学びながら英会話の実践ができてとても有意義な時間だった。

放課後は校内を探検したり、大学の目の前にあるお店が集まったところで買い物をしたりと各々がしたいことを自由にできた。私はほぼ毎日大学前の様々なショップを回っていた。毎日の飲食店での注文は、毎回緊張しながらだったが、後半には慣れてスムーズに注文できるようになった。もし英語が分からなくてもジェスチャーや単語などを使いながら堂々と注文できるようになった。

事前研修で学んだ英語、注意点等は、実際に現地でホストファミリーや conversation partner との会話、ファストフード店やショッピングセンター等のお店での実践で教わったことを役立てることができた。

4. まとめ

英語は発音がとても重要で、発音の違いや仕方について教えることに力を入れているように感じた。また、言葉にすることなどといった実践を中心に授業が進められることから鳥見につきやすいと実感した。日本では、発音については軽く触れる程度で英語が上達してから学ぶものだと考えている人が多い。授業の仕方についてもグループワークもするが、座学のほうが圧倒的に多いのが現状である。今回の研修で、日本とアメリカの英語の学習には実践か知識詰め込みかという違いがあることが分かった。このことを踏まえて、耳から英語に触れること、実践する機会があることはとても重要であると感じた。

私が一番成長したことは、英語が聞き取れるようになったことである。最初は聞き取ることもままならず、何度も聞き返していたが、一度で理解できるようになった。また今までは単語で聞き取っていたものを、文法や文で理解できるようになった。理解できたことで話すこともアメリカに来る前よりスムーズにでき、適切な受け答えもできるようになった。自分の成長を実感でき、とても充実した研修になった。

アメリカ研修

総合政策学部経営学科 2年

1. はじめに

私が海外研修に参加したきっかけは日本と異なる国や地域での文化に直接触れ、現地で生活してみたいと考えたからだ。また、数ある常磐大学の海外研修の中でもアメリカ研修を選んだ理由は二つある。一つ目は、実際に英語を使って現地の人とコミュニケーションを取り、コミュニケーション能力と語学力を上昇させるため、二つ目はホームステイをして現地の人と衣食住をともにすることで文化の違いを知ることができると考えたからである。

2. 事前研修の内容

自己紹介、ESTA の取得、Survival English（現地で使える英語表現や知識の学習）、旅行会社の方の説明、オレンジ学園で行う企画の話し合い、準備 など

3. 研修中の内容

UCI では American Culture と Speaking & Listening の二つの授業を行った。どちらも日本人のみのクラスで他の留学生とも交流できた。どちらの授業でもパワーポイントを使用してグループで発表する機会があり、アメリカについて、日本との違いについて学ぶことができた。Conversation Partner ではみんなで会話したり、ショッピング、ボードゲームで遊んだりして、UCI の学生と楽しい時間を過ごすこ

とができた。Student Panel では UCI の日本語学科の学生と会話をした。日本とアメリカの違いや、人気のある日本のアニメ、漫画、食べ物について話をする事ができて、改めて日本の文化が世界に広がっているということを実感することができた。私のホストファミリーはとても親切な方で、おかげで毎日楽しく過ごすことができた。毎日私たちのためにご飯を作ってくれて、分かりやすい英語で話してくれて、私の拙い英語でも伝わった時はとても嬉しかった。休日にはショッピングに連れていってくれて、本屋では日本の漫画がたくさんあった。





4. まとめ

今回のアメリカ研修を通してたくさんのことを学び、発見することができた。その中でも私は視野を拡大することができた。私はアメリカ研修に参加する前は、海外

に一度も行ったことがなく、日本の決まりやルール、文化などが当たり前だと思って生きていた。しかし、実際にアメリカに行くといろいろな当たり前だと思っていたことが、アメリカでは異なっており、新たな発見や学びをたくさん得ることができた。また、私は海外では言語の壁があるため、海外に行くのは難しいのではと考えていたが、その考えが変わった。語学力があることに越したことはないが、特に大事なのは挑戦すること、柔軟性などであるということ。このことを実際に経験して学び、身に付けることができた。これらのアメリカ研修で学んだこと、身に付いたことを実際の生活やこれからの就職活動でも活かしていきたい。

アメリカ研修 レポート

総合政策学部総合政策学科 1年



1. はじめに

私がアメリカ研修に参加した理由は、自身のスピーキング力を向上させたいと思ったからだ。バス停で外国人の人に話しかけられた際に、「何が言いたいのか伝わらなかった。」と言われた経験から、自分の考えていることが英語で言えるようになりたいと思い、アメリカ研修への参加を決めた。

2. 事前研修の内容

事前研修では、入国審査や店での注文、現地の人との会話における最低限の英語を学ぶ Survival English を行った。また、オレンジ学園の生徒との交流で何を行うかを研修参加者全員でアイデア出しをした。当日問題なく楽しめるようリハーサルを行ったり、各自で折り紙を折ってきて、その作り方を共有したりした。さらに、私たちがアメリカで安全に過ごせるよう、飛行機に乗る際の注意や、保険について旅行代理店の方からのお話を伺った。

3. 研修中の内容



アメリカに到着してすぐに、ホストファミリーがカリフォルニア一番のハンバーガーショップ「In-N-Out」に連れて行ってくれた。緊張でいっぱいだった私にたくさん話しかけてくれて、2週間楽しく過ごすことができそうだと安心することができた。ホストファミリーは家を出るのがとても早かったため、朝はあまり会話をすることができなかったが、学校から帰った後や夕食の際に、その日何があったかを共有しあうのが1日で一番楽しい時間だった。課題がある日はリビングで課題をし、課題のない日は家族みんなで映画を観たり、グラミー賞やスーパーボウルを見たりした。ホストファミリーのお気に入りのお店をインタビューするという課題があった際には、夜8時にも関わらず実際にそのお店に連れて行ってくれるような優しい家族だった。



UCI では、事前のプレイスメントテストで決められたクラスに分かれ、他の大学の生徒と一緒に American Culture と Speaking & Listening の授業を受けた。American Culture の先生は、ゲーム形式で授業を行ったり、直近の祝日や生徒の興味関心から話題を膨らませたりしてくれる楽しい先生だった。American Culture の授業で最も印象に残っていることは、「アメリカの文化を

学びたいければ、スーパーボウルの合間に流れるCMを見るのが一番いい」という話だ。アメリカンフットボールの決勝戦であるスーパーボウルは、視聴率がとても高いため、いろんな企業が現地の人々のニーズに合った商品を宣伝するため、アメリカの文化を学びやすいということだった。

Speaking & Listening の授業では、よりネイティブに聞こえる発音の仕方や強弱の付け方を学び、テキストを使ってネイティブの早い会話を聞き取る練習をした。また、バレンタインデーが近かったことから、日本とアメリカのバレンタインデーについてグループごとにプレゼンを行った。

毎週火曜と木曜の CP プログラムでは、私のグループに UCI の 4 年生の生徒がパートナーとなり、交流をした。初日はお互いのことを知るために、ランダムなお題をもとに自分のことを紹介しあった。2 回目はファッションアイランドという海辺のモールを訪れ、ショッピングを楽しんだ。3 回目はニューポートビーチに行き、砂浜の上にブランケットを敷いて会話をしたりお菓子を食べてたりした。最終日には大学の中にはでボードゲームを行い、私たちを楽しませるためにいろいろ計画してくれたことのお礼を込めてプレゼントを渡した。CP プログラムでは、年の近い人と会話をするだけで、よりリアルな英語に触れることができたのが良かった。また、パートナーの学生が拙い英語も理解しようとしてくれる優しい人だったため、物怖じせず話しかけることができた。



UCI の日本語学科の生徒との交流では、数年しか勉強していないにも関わらず日本語を流暢に話す学生を見て、自分も英語の勉強を頑張らなくてはいけないと感じた。日本に対するイメージや考えを実際に聞くことができ、日本の良さを再確認できた時間だった。また、交流会の後に SNS のアカウントを交換したり写真を撮ったり、バス停まで一緒に帰ったりできたことが、アメリカでの学生生活を満喫しているようで楽しかった。

4. まとめ

私がアメリカ研修で気づいたことは、スピーキングを上達させるためには、何度も何度も言い間違えることが必要だということだ。間違いを怖がらずに話すことで、正しい言い方に直してくれたり、もっとネイティブらしい言い回しを教えてくれたりするため、とにかく話してみることの必要性を身に染みて実感した。また、私はこの研修の一つの目的として、日本とアメリカの違いを探そうとしていたが、実は共通する部分も多いことに気が付いた。タクシーの運転手さんに「アメリカの人はどうしてそんなにフレンドリーなの？」と聞いた際に、「日本人だってフレンドリーだよ。それを表現するのがちょっと苦手なだけ。」と言われたことがとても印象に残っている。違うところは簡単に目が行くが、似ているところは見逃してしまいがちだということを理解することができた。今後英語の勉強を続けていく中で、たくさん間違えて、その都度修正して成長していきたいと思った。また、他文化交流をしていくうえで、違うところだけでなく、似ている部分も大切にできる人でありたいと思った。

アメリカ研修

看護学部看護学科 1年

私がアメリカ研修に参加した理由は、海外に行ってみたいという気持ちや英語の力を伸ばしたい、海外の人と交流したいという気持ちからです。よく日本人は内向的と耳にしますが、どのような点が海外の人と違うのかを観察して自分に取り入れたいと考えました。

事前研修の内容としては、まず ESTA の申請や、旅行代理店の方によるパッキングの際の注意点やアメリカへ行くにあたっての必需品や注意点、保険会社の方による安全なアメリカ生活を送るための気を付けるべき行動、危険予測、対処法の動画鑑賞を行いました。その他にもアーバインや UCI の紹介、おすすめの店や食べ物の紹介、オレンジ学園の子ども達が楽しめそうなオリエンテーションの考案、アメリカ生活で使えるサバイバル English の紹介などがあり、アメリカ研修がより待ち遠しくなりました。

私のアメリカ生活はとても楽しいものでした。

初めにホームステイについてです。私のホストファミリーは中国系で 4 人家族と犬 1 匹でした。ホストファミリーは初日に In-N-Out に連れて行ってきて、チーズバーガーと animal style のフライドポテトを食べました。その他にも休日にはダウンタウンディズニーへ、夕食後にはスーパーやモール、デザートを買いになどたくさんのところへ連れて行ってくれました。また、夕食はみんなで食べ、その時に今日の出来事や明日の予定などの会話を楽しみました。ホストファミリーの料理は美味しくヘルシーで色々なバリエーションがあった為、毎日飽きずに太る心配もありませんでした。



次は日常生活です。UCI での英語の授業は楽しかったです。2 月はアメリカンフットボールの試合やバレンタインデーがあった為そのことについての説明や、グループで「アメリカの州の説明」や「買い物時における日本とアメリカの違い」などの発表をしました。周りの日本人も自分と同じくらいの英語力だった為楽しく授業についていけました。授業時間が 12 時から 3 時だった為、学校が始まる前にルームメイトの子と昼を食べに、放課後はターゲットやスターバックス、家の近くを探検したりなど時間を有意義に使いました。また、毎

週火曜日と木曜日の放課後には Conversation Partner とファッションアイランドやビーチに行ったり、ボードゲームをしたりしました。彼女はとても優しく、すぐに仲良くなれました。

UCI の日本語学科の生徒との交流会では、グループになって日本語で会話を楽しみました。日本語学科の人の中にはまだ日本語を勉強して 1 年の人もいましたが、みんな日本語での会話ができていると驚きました。



最終日はディズニーに行きました。その日は私の誕生日だった為、キャストさんからもらったバースデー缶バッジをつけていたら、すれ違った人やキャストさんからハッピーバースデーと声をかけてもらい、とても嬉しく良い思い出となりました。カーズに乗った時、隣の人に話しかけたら会話が弾み、とても楽しかったです。

初めてのホームステイや言葉の壁、慣れない環境などから些細なストレスはありましたが、ルームメイトの子や同じ研修に参加した人、Conversation Partner の方のおかげで楽しい 2 週間を送ることができました。自分から進んで話しかけることで、相手との会話が弾み英語力の向上や自信につながりました。英語が堪能でなくても、ジェスチャーや簡単な言葉だけでも会話が成立したことから、積極的に会話をして楽しい思い出を作ることができました。また、私が話すときに相手が優しく耳を傾けてくれたのも、私が楽しく話せた理由の一つだと思います。

今後の生活では、自分から積極的に話しかけ、たくさんの人と交流ができればと思います。これからも英語の勉強に励み、また海外に行く機会があったら今回よりも言葉で自己表現したいと考えています。